

キャラクター名
上月 かなめ

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー		ワークス	レネゲイドビーイングB	カヴァー	事務員
	サラマンダー			年齢	???	性別
オプション	覚醒	渴望	衝動	闘争	初期侵食率	33 %
	出自	旧き記憶	経験	幸せなひととき	邂逅	家族

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	4	0	0			4	行動値	4
感覚	0	1	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	2	0	0			2	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		RC			交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	消費	
神格	P 誠意	N 無関心		
仲間	P 信頼	N 不安		
友人	P 友情	N 隔意		
仲間たち	P 慈愛	N 嫌気		
ここあ	P 庇護	N 猜疑心		
ムネ	P 信頼	N 不快感		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-Lv(下限7)								
結合粉碎	5	4	メジャー	-	-	対決	-	
効果: ダイス+lv 装甲無視								
氷の塔	7	4	メジャー	視界	範囲(選択)	対決	-	
効果: 攻撃力+lv*3 あなたのエンゲージにいる対象にできない。								
氷炎の乱舞	7	4	メジャー	-	-	対決	リミット	
効果: 攻撃力+lv*3 ダイス-2								
プラズマカノン	5	4	メジャー	視界	単体	対決	100%	
効果: 攻撃力+lv*5の射撃攻撃								
クロスバースト	3	4	メジャー	-	-	対決	80%	
効果: 攻撃力+lv*4 ダイス-2個								
オリジン:レジェンド	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果: 達成値+{精神+lv*2}								
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果: ダイス+Lv個する。								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

上月 楽女(こうづき かなめ)

天候を操る神様。とてもとても長い時間を生きている。

いつも笑顔。友好的で温和な性格。てきとーなところはてきとーに、真面目にやる時は真面目にやる。フツーのヒト。面倒くさがり。興味が無いことに対しては冷たい。

自分のことは神だと思ってる。ただ、レネゲイドビーイングであると言われても普通に受け入れる。もともと神というも人間に呼ばれてきた名称だし、そう呼ばれてきた期間が長かったからその呼び方が馴染んでるだけで、特に呼び方や自分の正体・生体にも興味が無い。天変地異が起こせる力を持つてるのは人間で言うところの神だからそれでいいのでは?と思ってる。

一度だけ世界各地を渡り歩いたことがある。今は手続きが面倒なので旅行もほとんど行ってない。

普通に人間社会で生きてきているので、人との接し方は一般人そのもの。大昔は神と崇められたりして人間との距離もあったかもしれないがもうその頃は忘れた。今はほぼ人間。友達も普通にいる。人当たりがいいので友人は多いが、仲良くなりすぎると失敗したな、と思う。同じ時間を過ごせない。レネゲイドビーイングの存在が確認される前は「神様」という不思議な存在としてずっと一緒にいられたが、今はそれもできなくなり、ふらっと消えたり運よく死期を知ることができた場合はもう一度だけ会いに行ったりするだけになった。

人との交流は大好きだし、大切な人と過ごす時間は宝物。長い時間を過ごしていても人との関わりが面倒にならないくらいには人好きではある。

死という概念と上手く付き合えていない。人間の根源的な死への恐怖は持ち得ていない。自分とは程遠いが、大切な人の死はあまりにも身近なため、悲しいことだというのは分かる。